令和4年度　退公連県大会実践発表

「退公連の魅力」

飯塚支部　　　大　里　錦　子

　**概要**

○はじめに・・・　退公連との出会いについて

○飯塚支部の現状について（高齢化・会員の減少）

○女性部長として、私ができる新会員の勧誘活動

○私が思う退公連の魅力について

・‘‘数は力’’～入会することが社会保障制度の安定的持続の要望活動になる

・‘‘感謝の気持ちを持つ’’　～嘗て公務員だった者として、地域の役に立つ社会貢献活動

・‘‘元気をもらう’’～会員の親睦と絆を深める活動を通して

○はじめに・・・　退公連との出会いについて

皆さん今日は。私は、飯塚支部で女性部長をしています　大里　銀子と申します。どうぞ、よろしくお願い致します。

私は、8年前に、小学校の教員を退職しました。

退職の時、先輩の先生方が退職校長会のお誘いに来られました。その時に、併せて退公連にも誘われました。

退公連は、公務員を退職した者の全国的な組織で、年金等の要望を唯一国に陳情することが出来る団体であることを、その時初めて知りました。

入会した当初は、支部の組織的なことも分からず、一会員として支部の総会に出席していただけでした。

しかし、入会して2年後、大先輩の先生が体調を崩され、＿代理で女性部長会に出席し、退公連の目的や意義、活動について、改めて認識させられました。

その翌年から、飯塚支部の女性部長として支部役員会への参加、県の女性部研修会等で学んでいます。

○飯塚支部の現状について（高齢化・会員の減少）

飯塚市部は、旧飯塚市の飯塚東、飯塚酉、二瀬、鎮西、幸袋、菰田の6つの班で構成されています。

私は、飯塚西班に所属していますが、飯塚西班は、私のように市外居住者もおり、新聞は郵送になっています。

以前は、各班の班長さんを中心に、新聞配りや会費集め、班会議等もなされていたようですが、高齢化や会員の減少等により、班活動が難しくなっている班もあり、新聞や会費集めも郵送の方が増えている現状です。

加えて、コロナ禍になって2年半が経ちました。この間、役員会や総会が開催できず、各班や支部全体の課題を共有し、打開策を講じていく事が足踏み状態となっています。

現在、支部長さんが事務局長も兼務され、いろいろな事を一人でこなされています。頭が下がります。

○女性部長として、私ができる新会員の勧誘活動

そこで、女性部長として私に出来る事は何だろうと考え、会員を増やすことに取り組みました。

私は、飯塚支部の女性部長であると同時に、飯塚市退職小学校長会の事務局長をしています。

そこで、新会員の勧誘にあたっては、私が退公連に入会した時　のように、退職校長会への勧誘の折に、退公連への入会を勧めています。

その時に、退公連は、年金問題等について唯一国に陳情できる団体であることを伝え、その為に、この会の会員が増える事が重要な役割になることを話しています。実際の陳情の様子は、県の会報での国会議員への陳情記事を紹介しています。

また、退公連に入会すると、月1回発行される日公連の新聞が届き、年金問題をはじめ、国の動向について学習することが出来るという事を話します。

日公連の新聞で、私のお薦めは、裏面の「いきいき退公連」や「会員の広場」、「私のひとこと」のコーナーです。各県の活動の様子が具体的に紹介されているので、励みになることや退職後の生き方や社会貢献へのヒントが得られることなどを伝えています。

最後に、飯塚支部では年1回会員の親睦を図る為に、支部唯一の活動である総会並びに懇親会を行っていることを伝えています。

その結果、平成30年度は6名、令和元年度も6名、令和2年度1名、令和3年度3名、令和4年度2名の新会員の加入がありました。

しかしながら、この3年間は、コロナ禍で懇親会はもとより総会も行えていませんので、なかなか会員相互の親睦を図ることが出来ていません。

また、会員を増やすための取組の課題として、退職してからは組織に縛られることを好まない方もおられ、声を掛けた退職者が全員加入されるということではありません。

そして、管理職だけでなく、幅広く退職者に声掛けが出来るように、会員が自分の知り合いの退職者に気軽に勧誘できる体制づくりが出来ればいいなあと思います。

〇最後に、退公連の魅力について述べます。

皆さんは、「退公連の魅力は何ですか？」と問われたら、どう答えますか。

私は、退公連に入会して8年目と日が浅いので、十分な答えになっていないかも知れませんが、私が思う退公連の魅力は3つあります。

1つ目は、「数が力になることです。」

私は、退職してからもいろいろな組織に入り、その会の方針に従って、会の皆さんと会の継続・発展の為に活動しています。

退公連は、会の目的である安定した社会保障制度実現の為に長い間取り組んで来られ、今の年金制度があるのだと思います。ですから、退公連に入会する事が、社会保障制度の安定的持続の要望活動に繋がるのです。

2つ目は、「感謝の気持ちが持てたということです。」

私は、退職して直ぐに居住地の通学合宿実行委員会のメンバーに入りました。

毎年10月に、下山田小学校6年生の希望者による4泊5日の通学合宿を開催しています。通学合宿では、①家庭を離れ、仲間との共同生活を通して、調理・洗濯・掃除などの手順を学び、基本的な生活の確立及び自主性・協調性などの豊かな心を育む。②子ども同士や地域の大人など、様々な人とのふれあいの中で人間関係を深める。③「生きる力」や「学ぶ力」を育むことを目的にしています。

私は、スタッフの一員として、子どもたちが仲間と協力し、安全に楽しく生活出来るように、見守りやアドバイスを行っています。勿論開催中は、1・2回程度泊まり、子どもたちと一緒に寝ています。

子どもたちは班で協力して、だんだん調理の段取りが良くなり、早く食事や後片づけが出来、ゆとりの時間を生み出すことが出来ました。また、合宿中は、ノーメディアで、テレビやゲーム機がありませんが、子どもたちは友達や大人とのふれあいを十分楽しんでいました。

嘗て公務員だった者として、地域の役に立つ社会貢献活動が出来ていることに喜びを感じています。

3つ目は、「元気をもらうことです。」

飯塚支部の総会・懇親会に参加し、先輩方の昔話に花を咲かせ、互いの健康を気遣う姿に、心が温かくなりました。また、特技のアコーディオンを弾いて、皆さんと一緒に歌って懇親会を盛り上げてくださる方もおられ、心が和みました。

　このように、会員の親睦と絆を深める活動を通して、私自身が元気をもらっています。

　また、県の女性部研修会では、栗崎部長様が1枚のタオルを使って、介護・保育用の柔らかいエプロンの作り方を紹介してくださいました。早速勤務している高校の介護福祉コースの先生に紹介して喜ばれました。

　いろいろな事に参加することは億劫になりがちですが、参加することにより、何かしら元気をもらう有意義な時間になっています。

終わりに、飯塚支部の吉松支部長様が、昨年8月に日公連新聞に投稿されました短歌の作品を紹介します。

「会員の漸減如何に食い止めん　炎天の下新聞配布」

皆様、これからも元気に活動しましょう。

ご清聴ありがとうございました。